

浄土

monthly
JŌDO

1998 April

4





テレコムしよう。



コミュニケーションの未来へ
日本テレコム

お申し込み、お問い合わせはお客様センターへどうぞ。

☎ 0088-82 (無料) または 0120-0088-82 (無料) [受付時間] 9:00~23:00 (年中無休) [インターネットホームページ] <http://www.japan-telecom.co.jp/service/>

寺院紀行

撮影 ● タカオカ邦彦

寺に歴史あり。

人々に信仰あり。

日本の、心の故郷を紀行する。

赤坂一ツ木

浄土寺



江戸中期に太田駿河守により
鑄造された金銅の地藏尊

かつての地藏堂はいま本堂内
にその面影を残している



本尊の顔と手は戦火をのがれた

浄土寺第37世
阿川文正住職



開基の大田道灌の五百回忌に
ちなみ戒名に院殿号、誉号、
大居士号を贈った



御忌の唱導師を拝命した時の教書

赤坂一ツ木
浄土寺

浄土寺の全景。といっても林
立するビルの谷間に本堂がよ
うく見えるだけだ



紀伊国坂に今も残る御門



徳川八代將軍吉宗公が造営させた赤坂氷川神社。当時の社が今も残っている



赤坂見付といえば弁慶橋



ネオンも鮮やかな夜の一ツ木通り。手前が浄土寺参道入り口で、お地蔵さんが並ぶ

浄土

1998/4月号 目次

カラーグラビア寺院紀行「浄土寺」	写真＝タカオカ邦彦	
御忌の春	勝崎裕彦	08
表紙は語る	川井 聡	17
寺院紀行 赤坂一ツ木「浄土寺」	真山 剛	18
コラム 仏教歳時記		27
新連載 無明抄・祈りと供養	秦 恒平	28
御法語に聴く		34
コラム なんか変だな		39
特集・宗祖の忌日法要		40
仏教相談	大室了皓	50
閑病の記	児玉良男	54
Jフォーラム		61
事務局便り		69
編集後記		70



表紙題字＝浄土門主 中村康隆猥下
 表紙撮影＝川井 聡
 アートディレクション＝近藤十四郎
 協力＝迦陵頻伽舎

御忌

の春

勝崎裕彦
(大正大学・東京女子大学講師)

一

『四十八卷伝』（『法然上人行状絵図』『勅修御伝』）卷三十七の詞書第一段は、次のような書き出しである。

建暦二年正月二日より、上人日來不食の所勞増氣し給へり。すへてこの三、四年よりこのかたは、耳目朦昧もうまいにして、色を見、声をき、給事、ともに分明ふんめいならず。しかるをいま、大漸だいぜんの期ちかつきて、二根明利にこんめいりなる事、むかしにたかはす。みる人随喜し、不思議のおもひをなす。二日以後は、更に余言をましへす。ひとへに往生の事を談し、高声こうしやうの念仏たへすして、睡眠の時にも舌口とこしなへにうごく。

（傍訓・句読点筆者、以下同）

建暦二年（一二二二）の正月二日からは、法然上人はすでにこの頃、あまり食べられないこともあつて、わずらい衰えるさまも大分ひどくなられたようである。いずれにしてもこの三、四年來は、耳や目がぼんやりして、ものを見、音を聞かれることも、ともにはっきりしないのである。しかしながら今、老病が次第に重くなってきた時期にもかかわらず、目と耳がしっかりして、以前と同じようである。これを見た人々はとてもありがたく感じ、不思議な思いがしたものである。二日以後は、さらに余分なことはおっしゃらない。

ひとえに往生のことを語られ、高声の念仏が絶えることなく、お眠りになっている時も舌や口が絶え間なく動いている——、以上が少し長い引文の意訳である。

法然上人は、長承二年（一一三三）四月七日のお生まれであるから、この建暦二年の正月を迎えて八十歳となられた。世は、後鳥羽上皇が院政を敷き、鎌倉方も三代將軍源実朝が北条義時を執権職にして表に立たされてはいたが、新幕府は多事多端の問題を抱えていた。法然上人は、前年建暦元年八月に後鳥羽上皇より帰洛を聴され、十一月二十日、入洛して東山大谷に住んだ。建永二年（一二〇七）三月、四国配流の途についてから五年ぶりの帰洛であつたが、所労と老齡のおからだには、年の暮の寒さなども加わり、大分こたえておられ、わずらいと老い衰えはまことに深かつたものであろう。京洛に無事に帰つて、弟子たちとともに落ち着いた東山大谷の禪房であつたが、やがて病床に臥すことになるのである。

『四十八卷伝』では、明けて正月二日から法然上人が病床に臥すことを描き、詞書を添えているのである。しかし衰えがひどく、食事が喉を通らなくなつた病床の上人が、この三、四年來遠くなつた耳も、減退した視力も一時的に回復して、昔と同じようなありさまとなり、弟子たちは不思議な思ひで大いに驚いたことである。

詞書第二段は、

十一日の辰時に、上人をき居給て高声念仏し給。きく人みな涙をなかず。

と書き出される。正月十一日の辰の時、午前八時頃、法然上人は床を払って起き上がられ、高声念仏を唱えはじめられた。弟子たちは、皆一様に涙を流した。さらに、詞書によれば、上人は弟子たちに申し述べられる。「高声念仏しなさい。阿弥陀仏の来迎であります。名号を唱えれば、一人として往生しないものはありません」「観音・勢至菩薩をはじめ聖衆の来迎が見えております。どうぞ拝んでください」と。

続いての詞書第三段では、同日の巳の時、午前十時頃になると、弟子たちは三尺の阿弥陀仏の尊像を病床に置いて、「この仏を拝みますか」と聞くと、大枕に寄りかかった上人は、ふり仰ぐ天空に阿弥陀如来の三尊の来迎を拝している。「この十年あまりの間以来、念仏の功德が積もって、極楽浄土のありさまや仏菩薩のお姿を拝することが普通のことなのです。けれども日頃は隠していませんでしたが、今は最後に臨む時ですので申し述べます」——、いよいよ法然上人の臨終が近づいてきたのである。弟子たちはかなしみの涙の中に、師の上人の往生の時を覚悟しているのである。

詞書第四段には、「廿日の巳時（みよのとき）に、坊のうへに紫雲そひく」とあり、また「廿四日の午時（つまのとき）に、紫雲おほきにたなひく」とあり、絵伝も五色の雲の現れるさまを描いて、念仏者の臨終に迎える紫雲がいよいよ棚引くのである。

詞書第五段は、建暦二年正月二十五日の法然上人ご往生の事を伝える一文である。二十三日から上人のお念仏は、あるいは半時、あるいは一時と、高声念仏をたゆむことなく続けられている。二十四日の酉の刻、午後六時頃から二十五日の巳の時、

午前十時頃までは、高声にからだ全体をふりしぼって休みなく念仏された。

廿五日の午刻うまのひよりは、念仏の御こゑやうやくかすかにして、高声はとき／＼ましはる。まさしく臨終にのそみ給とき、慈覚大師の九条の袈裟をかけ、頭北面西にして、「光明遍照 十方世界 念仏衆生 撰取不捨」の文をとなへて、ねふるかことくして息たへたまひぬ。音声と、まりてのち、なを唇舌しんぜつをうこかし給事、十余反はかりなり。面色ことにあさやかに、形容をめるに似たり。建暦二年正月廿五日午の正中なり。春秋八十にみち給。釈尊の入滅におなし。

正月二十五日の午の刻、正午十二時、念仏の声も次第に弱くなる中、「撰益文」の偈文を唱えながら、眠るがごとく息を引きとられたという。声が止んでもなお唇や舌が動き、顔色はよく、しかもにこやかにほえんでおられるようであつたと記している。大聖釈尊の生涯と同じように、法然上人八十歳の大往生であつた。

二

念仏の元祖さま、宗祖法然上人の忌日を御忌という。とくにその忌日法要を御忌会と呼び親しんで、法然上人の念仏の遺訓・遺教に思いをいたし、そのご生涯やお人となりにあらためて心を寄せるのである。

法然上人の正忌は、もとより一月二十五日である。大永四年（二五二四）、知恩院二十五世超誉存牛の時、後柏原天皇から鳳詔が下賜されて、一七昼夜の御忌会の規格が定められたというから、元来は一月十九日から二十五日までの七日七夜を御忌法会の期日としていた。これが明治十年（一八七七）に、陽春の好季四月十九日から二十五日までの期日に改められることになる。

御忌は、俳諧の方でも重要な季題の一つであるが、そういうわけで、江戸期を中心とした旧暦時代は一月二十五日正忌をめぐって、新暦時代になっての明治十年以降からは春・四月の季語として、今日まで多くの名句秀句が作られている。ここでは御忌にまつわる佳句をいくつか紹介して、御忌時分の時候風情を味わいつつ、法然上人への尊崇の思いを深めたい。

はじめに御忌に由来する季語を列記すると、御忌会・法然忌・円光忌、御忌詣・御忌参、御忌の寺・御忌の鐘・御忌の僧などさまざまである。ほかに弁当始めも御忌にまつわる季語で、京都では御忌詣をその年の遊山のはじめとしたことによるわけで、これは旧暦一月のものである。同じく衣裳競べとか御忌小袖も旧暦一月京都地方の季語で、美服を競い、綺麗を飾り、着飾って参詣する御忌詣の衣裳を見て、京都の呉服屋はその年の流行を定めたということである。経の紐解は、経巻の紐解から七日七夜にわたって『阿弥陀経』を誦する御忌会の法要次第に由来する季語である。

さてこの項では旧暦の名句を二、三取り上げたい。旧暦一月下旬は、現今でいえば二月

下旬から三月上旬ということ、そのあたりの時候的なことも踏まえて、句に接したい。

なには女や京を寒がる御忌詣 蕪村

御忌の鐘響くや谷の水まで 蕪村

与謝（谷口）蕪村の名句であるが、京都に住むことが多かった蕪村には、東山知恩院や永観堂禪林寺などの有名な御忌の寺が、とても親しいものであったにちがいない。

着たをれの京を見に出よ御忌まふて 几董

高井几董は京都の人で、明和七年（一七七〇）三十歳の時に蕪村門下に入った蕪村一派の重鎮である。衣裳競べや御忌小袖の季語の由来にも窺われるように、娘たちの着飾った華やかな御忌参りの姿あふれる京都の町が偲ばれるごとくである。

嫁入せし娘も多し御忌詣 太祇

炭太祇は元来は江戸の人であるが、宝暦元年（一七五二）以降、数年に及んで京都に遊んでいる。衣裳競べの若い娘たちの晴れ着にまじって、すでに嫁入りした婦人たちの着飾

った姿も多く見られたのが、新春正月の京都の知恩院を中心とした御忌会であつたようである。

三

旧暦時代の江戸俳句に対して、現在の俳諧歳時記では春・四月の季題として採用されている御忌である。ただ法然忌や円光忌のように、一月二十五日正忌にむしろふさわしい場合もあり、近代・現代俳句の作例の中にも、あえて一月二十五日を念頭に置いた句もある。いずれにしても、旧暦時代の「春を呼ぶ法会」である御忌会は、現今では、桜花あるいは百花繚乱の「春の盛りの法会」ということになる。

西山によき日沈みぬ御忌詣 虚子

群集する人を木の間に御忌の寺 虚子

俳聖高浜虚子も東山知恩院の御忌の盛儀の中に身を置き、京都西山に沈む夕日を阿弥陀如来の大慈大悲の光明にもたとえている。

大いなる月の尊く御忌詣り かな女

長谷川かな女は、「月影の歌」を詠まれた法然上人のお姿を、大きな月に重ねてはるかに尊崇している。

御忌法話流罪のくだりみな泣きぬ 無漏子

居睡りもよしと法然上人忌 展宏

御忌法話の中でも、四国配流の一段は善男善女の涙を誘う物語である。お説教師も、力が入り、熱の込めるところである。そんな中で、うつらうつらと居眠りをする人もいる。おおらかな法然上人が、「よし、よし」と頷かれているようである。

御忌の鉦はじめの間まちまちに 青畝

もろ鳥のこゑのもはらや法然忌 澄雄

桜葉となりゆく御忌の御寺かな 笠雪

なごやかな笑顔あふれる御忌参り。御導師とともに唱和するお念仏。御忌の寺には、御忌の春が真つ盛り。陽春の光の中に、私たちはおだやかな心をとともに育はぐんでいる。

表紙は語る

車窓から

月

写真と文

川井 聡

乗降客の途絶えた
駅には哀愁だけが残る
あるいは不意に
客車の窓の木枠から
懐かしい旅
の記憶がよみがえる
鉄路の果てに
彩いていくひとり
ひとりの人生



釧網本線 細岡付近

北海道 釧路町

野生動物にとつて、北海道のローカル線は結構居心地がいい休憩所のようなのです。

というのは狩猟期でも鉄道の沿線なら発砲禁止で撃たれる心配はないし、国道のようにしよっちゅう自動車がやってくるわけでもなく、せいぜい一日数回鈍行列車がやってくるだけなのです。山間部で運転席の横から前の方を見てみると、エゾ鹿やら狐やらと出会うことができます。しかし、先日稚内で会ったハンターによると、彼らが野生動物と出会えるのは、一日にせいぜい一回か二回だそうで、「奴ら頭がいいから、撃たれるところにはでてこないんだ」ということでした。

これから5月頃にかけて、原野にキタキツネの赤ちゃんが産まれます。背丈ほどの線路に寄り添うようにして、湿原デビューです。

かわい さとし 現在、国内の鉄道旅行ガイド制作のため、日本全国のローカル線と温泉をめくりながら取材中。自宅より取材先にいる方が長いらしい。

寺院紀行

赤坂一ツ木

浄土寺



浄土寺の参道。手前は一ツ木通り

撮影／タカオカ邦彦

文／真山剛

法類という言葉をご存知だろうか。「ほうるい」と読むが、ワープロで「ほうるい」と入力すると、砲臺と変換され、これ以外の変換はない。つまり法類は一般用語ではなく、いわゆる業界用語である。

さて、この法類とは、同じ学寮で教え(法)を受けたことを通し、仲間(類)の契りを結ぶ関係のことで、寺の世界ならではの言葉だ。一般社会でいうと、親戚である。ただし、そのつながりが血ではなく法であること、また、関係が個人や家ではなく、寺と寺であることが一般的ではない。つまり、寺社会ならではの関係である。

読者の多くが、寺の関係者だから何とも大袈裟に書くことはないのだが、最近、この法類が「一般社会の親戚」化しているという。寺の世襲化、寺同士での婚姻、そして法類の代表ともなるとその寺の責任役員に入ることなど、果たす役割が大きいために、一般的な親戚がそのまま法類になることが多くなったからである。

こうした中で、本来の法類を今にしっかり伝える会がある。その名を一円相会という。僧侶養成道場の首座であった増上寺の境内にあった学寮「清涼室」で学んだ四十三のお寺が会員となっている会だ。今月はこの一円相会の会長を務める東京赤坂一ツ木通りの浄土寺を訪れた。

浄土寺の阿川文正住職がこの一円相会の会長に推薦、就任されたのは平成八年十一月。就任にあたっての阿川住職の想いは、



土蔵造りだった頃の本堂。江戸の名物だった火災から本尊を守るため土蔵造りになつてゐる

「一円相会の会員寺院の手元に残っている書籍の貸し出し帳から清涼室でどのような勉強をしていたのかを割り出してみたい」ということだ。

この一言を聞いて、「浄土寺の住職は学者かな」と想像した読者は勘が良い。そう、阿川住職は大正大学の教授である。浄土学を専門とする浄土宗の中でも重責を果たされている学者の一人で、浄土宗教学院の理事や教学審議会の委員長、各種出版の編集委員長などをされている。

その阿川住職が今年の一円相会の例会で大いに励まされた、という。励まされた理由のひとつは会長就任。もうひとつは御忌の唱導師を勤める事への励ましである。

さて、御忌は、ご存じだろうか。こちらは「ぎよき」と入力すると、ちゃんと御忌と変換されるので、一般用語である。

御忌とは浄土宗の開祖法然上人の忌日法要のこと、大永四年（一二二四）に後柏原天皇の仰せて始められた伝統ある行事だ。法然上人は建暦二年（一二二二）の一月二十五日に八十歳でなくなられたので、忌日は一月だが、増上寺では明治以降、厳寒の一月ではなく春暖の四月、参詣しやすい桜の時期に行われるようになった。増上寺は関東を代表する浄土宗の大本山だが、この御忌は増上寺の行事の中で最も盛大な行事だ。



浄土寺裏手の薬研坂。地名のようにながさ

そしてこの御忌ならではのこととして、教化活動などで多大な功績をあげた高德の上人が唱導師として法要の導師を勤めることができるのだ。普段の法要は増上寺の住職である大僧正が導師をされるが、この御忌法要だけは特別なのである。それだけにこの唱導師に選ばれることは、浄土宗僧侶として一世一代の榮譽なのである。その唱導師に浄土寺阿川文正住職が選ばれたのだ。法て結ばれた仲間が大いに励ましたのは想像に難くない。

御忌では唱導師を中心に僧侶や檀信徒など合わせて数百人で練行列を行うが、随喜寺院として一円相会の会員も練行列、法要に参加するという。きつと見事な行列、法要になるのだろう。

さて、寺の話に移ろう。

平河山源照院浄土寺が浄土寺の正式名称だが、地元では赤坂六地藏尊の通称で親しまれている名刹だ。開山の年号は不明だが、おそらく千四百年代だろう。開山の教養上人は文亀三年（一五〇三）二百二十歳没と過去帳に記るされている。開基は江戸城を築いた太田道灌だ。山号にも残るように、浄土寺は最初江戸城の平川口にあった。それが徳川家の江戸城増築で麴町など二度ほど移転した後、現在の赤坂の地を拝領し落ち着いた。慶長十二年（一六〇七）のことだ。

今でこそ赤坂一ツ木通りは東京を代表する繁華街だが、浄土寺移転当時はまだ、家屋もまばらであつたに違いない。地名的には赤坂



本堂裏手にある庭園。都心とは思えない静けさだ。池は心の字を力たどつて

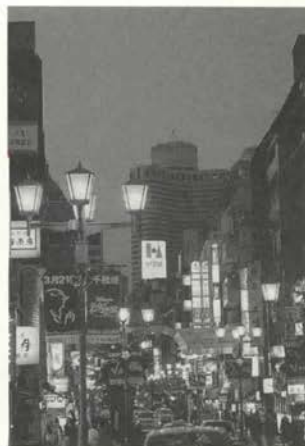
よりも一ツ木の方が古いようで、戦国時代末期、北条氏が上杉氏を破り一本原に勝鬨をあげた、と小田原記に残っている。そしてもと一ツ木には上一ツ木と下一ツ木とあり、麴町の方までを含む地名で、赤坂は下一ツ木にあつたようである。

赤坂の由来は、徳川家康の江戸城増築で現在の赤坂御所に移った紀伊和歌山藩徳川大納言邸前の坂、現在も交差点名として残る紀伊国坂だが、この坂が赤土だったからという説と、紀州屋敷に茜（あかね）が一面に咲いていて赤根山といわれていたからという説がある。ちなみに一ツ木も氷川神社の銀杏、浄土寺の末寺である清巖寺の榎のどちらかの大本に由来するという説、大山街道（現国道246号線）が通っていて人馬が絶えず、人を継いだことから人継↓ひとつぎ↓一ツ木となったとの説がある。

どちらにしろ、この赤坂が栄えたのは家康の江戸入城、天正十八年（一五九〇）以降で、特に寛永年間（一六四一―一六四一）の武家屋敷、神社、それに伴う商人、職人の町並みの発達からだ。

現在のの一ツ木通は浄土寺の門前町としてその頃からの繁華街だった。菓子、陶器、菓舗、玻璃、扇子、蒲焼、鶏卵鰯魚節、茶といったお店が立ち並んでいた。江戸城を守る徳川直属の旗本が中心となつた武家屋敷の町だけに、台所的な役割を果たしていたのである。

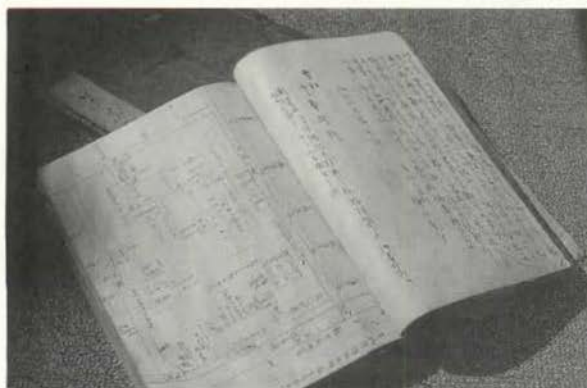
移転当時からこの一ツ木通りに面していた浄土寺は、二つの顔を



一ツ木通りは昼夜を問わず賑わっている



五反田の墓地にある大給松平家歴代の墓（上）と柳亭種彦の墓石



戦火を逃れた過去帳は浄土寺の歴史を今に伝える貴重な資料だ

持つ寺といえる。ひとつは旗本の菩提寺としての顔であり、もうひとつは庶民の憩いの場としての顔である。

明治四十一年、浄土寺の墓所は五反田に移った。明治維新による武家の没落により、荒廃した寺の境内を宅地として活性化する苦肉の策であった。

その墓地に行ってみたが、見慣れぬ墓石が並んでいる。頭に傘がついたような墓石だが、それが武家の墓石だった。中でももともと立派なのは大給松平家歴代の墓だ。また、柳営会といって徳川家の旗本の会が今も残っていて、その会員の元武家の家の墓もいくつも建っている。珍しいところでは江戸後期に読本、合巻物の作者として活躍した柳亭種彦の墓もある。「修紫田舎源氏」が代表作のこの種彦は本名を高屋知久といい二百俵どりの旗本だったそう。

もともとこうした武家の菩提寺だった面と同時に、浄土寺の特徴のもうひとつが六地藏尊の緣日に代表される庶民のための一面だ。地藏尊の緣起は寛文三年（一六六三）に時の住職が発願し、造立したことに始まるが、その地藏尊は火災や戦災に遭いいまは無い。しかし、享保四年（一七一九）に太田駿河守により鑄造された金銅の露坐の地藏尊は運よく災禍を逃れ、今も本堂前に鎮座している。

この地藏尊には江戸時代中期より地藏講ができ、毎月六の日に緣日が開かれてきた。繁華街の真ん中に位置するだけに、当時から大



丸い墓石は浄土寺の歴代住職の墓だ

勢の庶民で賑わっていたそうだ。大正時代から昭和の戦前までは特に賑やかで、巢鴨と並ぶ縁日であり、門前より左手に出店許可された店だけで二百店が並び、門前右手には植木市が並んだ。それでも六の日だけではさみしいと、さらに一の日にも縁日がたち、一六地藏といわれたそうだ。

この賑わいも戦火により一時さびれることになる。とはいえ、地藏堂は消失したものの地藏尊が戦火を逃れたこともあり、再び賑やかな縁日が立った。しかし、ここ二十年位前から住民が減ったことや、地元の警察からも、月に六日間が多すぎるのでは、という話もあり、六の日だけに戻した。さらに十五年前には立派な歩道ができ、現在は境内に十数店が出店するだけとなったという。それでも赤坂という土地柄を考えれば立派なものだ。

六地藏はこうして少々さみしくなったが、今も華やかなのが、盆踊りだ。盆踊りは昭和三十年代始めから浄土寺の境内で始められた。きっかけは幼稚園の夏期保育の園児と父兄の盆踊りだ。そう、浄土寺は昭和二十七年から四十七年まで、幼稚園を開いていた。私立赤坂幼稚園といい、境内にあった。

浄土宗は法然上人七百年御忌(明治四十四年)にあたり、宗の教化方針として幼児教育に力を入れたため、いまでも全国に浄土宗寺院が運営する保育園、幼稚園は少なくない。この私立赤坂幼稚園もそ



「法然教学を学んだ者として遺澤奉戴八百年の記念すべき年に唱導師を拜命したことを、無上の光栄とありがたく思います」と語る阿川住職

のひとつだ。私立赤坂幼稚園は公立の学校や幼稚園が増えて止む無くの廃園となったそうだが、廃園を惜しむ人が多く、なかでも盆踊りだけは続けてと、一ツ木町会が中心となって続けてくれたという。数年前からは隣接町会や商店街も参加し、浄土寺主催の行事となった。いまでは赤坂の全二十町会の会長、副会長が実行委員となり、地元企業も協力しているという。

盆踊りでは地元の民謡グループが率先してくれ、また境内を飾る提灯も地元の商店や芸者さん、料亭などが出してくれ年々増える一方という。いまや浄土寺の盆踊りは赤坂の風物誌である。

盆踊りは浄土寺の開基、太田道灌の命日である七月二十六日を含む前後に行われるが、土日は除くという。土日を除くというのも、都心の寺ならではの。都心の寺といえば、浄土寺境内の借地には民家、病院、指圧鍼灸、会社、飲食店もある。一ツ木通りの向かいのビルには、二十四時間営業のレストラン、都銀のキャッシュデイスペンサー、コンビニ、牛丼屋が入っている。

通りから本堂までは百メートル以上あり、途中少し曲がってのもいるので、本堂や地藏尊まで表の喧噪は届かない。だが、回りをビルに囲まれ、夜ともなると本堂上にはTBSのビッグハットが輝く浄土寺。まさに都心の寺として、これからも今まで同様に、地元住民の心のよりどころとして息づいていくに違いない。



阿川住職の趣味は歌舞伎鑑賞と日本刀の手入れだ。寺に伝わる備前長船法光をはじめ名刀が残っている

記 時 歳 教 仏

四月八日は花祭。お釈迦さまのお生まれになった日です。

幼い頃、お寺に行って甘茶をふるまわれた思い出のある方も多いでしょう。

地を指せる御手より甘茶おちにけり
中村草田男

花御堂の中の誕生仏に甘茶をかける、なんとも心ゆかしい行事です。天上天下をさした御手のさまが、よく伝わってくる有名な句です。

花御堂の下に下足の夫婦かな

高浜虚子

これは大きなお寺のようですね。大阪の四天王寺の花祭は各仏教団体合同で盛大です。戦前の東京では日比谷公園で催されたものが人気があったといえます。

花祭後れじと蹤く風の稚子

石塚友二

超宗派の各地区仏教会で催す

花まつり

花祭にはお稚児さんの練り歩きなど華やかなものがあります。

斧^{だいこ}餅^{もち}底の熱き手合せ仏生会

本田静江

敬虔な祈りを感じる句です。

お寺の行事というと抹香くさいイメージがありますが、花祭は明るいし、堅苦しくないものです。けれど、それだけにかえってさまざまな人々の一心に拝む、祈る姿が映えるような気がしますね。

薫香
線香
經典
念珠

浄土宗総本山知恩院御用達

豊田愛山堂老舗

※地方発送受賜ります。

京都・祇園
TEL(075)551-2221番(代)
FAX(075)525-1806番

新

無明抄

祈りと 供養

秦恒平

連

1

載

「無明^{むみょう}」という言葉に初めて出会ったのは、仏典からでも仏教の啓蒙書からでもなかった。敗戦後の新制中学時代に愛読しはじめた谷崎潤一郎の作、小説ではない「無明と愛染」という戯曲の題からであった。作中では、ともに、主人公である男女の名に当ててあった。戦^{いくさ}きに満ちて無残^{むぜん}だった。過酷な世界が描かれていた。仏教の言葉採ったに違いないとは察していたが、意義を識^しっていたわけではない。

いま手近な仏教辞典を参照すれば、「無明」にも「愛染」にもくわしい解説がある。くわしく知りたい人はそれらの解説に拠^よつてほしいが、要するに「無明」とは「迷いの根本・煩惱の根源」たとしてある。「愛染」には愛染明王や愛染法もあるように、必ずしも全否定・全否認されたものではないらしいが、それも要するに、「自法を愛染するゆゑに他人の法を毀^こすれば、持戒の行人^{ぎじやう}なりといへども地獄の苦をまぬかれず」という黒谷上人語灯録の拾遺の字句をおしひろげ、とかく愛欲に塗れゆくさまかと想像される。

高校一年生の学内文化祭で、わたしは、谷崎のこの戯曲を自身演出してみたいと思い、しきりに案をめぐらした覚えがある。実現はしなかったが「無明」と「愛染」への幼い理解は持っていた、持とうとしていた。その証拠に、というのも照れくさいが当時のわたしの日記には「無明抄」と題してある。少年の術学でありなにほどの意味もないが、それでもそれなりの自己批評ないし人間理解は帯びていただろうと思う。惑い多い青春であった。楽しいこともいっぱい有った、のに、日々悩ましくて切なかった。角川文庫の『般若心経講義』を愛読し、鈴木大拙の岩波新書『禪と日本文化』に触れ、また倉田百三の『出家とその弟子』や『愛と認識との出発』に心を惹かれていた。十六、七歳だった。その頃に、こんな歌を作っている。

ちなみに高校一年生時分の校舎は、京都市内の智積院のそばに、二、三年生の頃は泉涌寺の下、東福寺の上の日吉ヶ丘に在った。そんな環境の市立高校に通学し、それら明浄処の絶えざる誘惑にすすんで身をまかせ切っていた。育った家は浄土宗総本山知恩院の新門前通にあつた。「チオインさん」はいわば家の庭のように日々に親しかつた。

歩みこしこの道になにの惟おもひあらむかりそめに人を恋ひゐたりけり
炎口えんくのごと日はかくろひて山そはの灌木はたと鎮しずまれるとき

三門にかたゐの男尺八を吹きゐたりけり年暮るる頃

日だまりの常楽庵に犬をよべばためらひてややに鳴くがうれしも
たづねこしこの清寂にみだらなるおもひの果てを涙ぐむわれは

日あたりの遠き校舎のかがやきを泣かまほしかり遁れ来つるに

青竹のもつる音の耳をさらぬこの石道をひたに歩める

瞬間ときのわがうつし身と覚えたり青空へちさき蟲しみてゆく

ひむがしに月のこりゐて天あまぎらし丘の上にわれは思惟すてかねつ

笹原に露散りはてず朝日子のななめにとどく溪に来にけり

別れこし人を愛はしきと遠山の夕やけ雲の目にしみにけり

舗装路はとほくひかりて夕やみになべて生命いのちのかげうつくしき

ほろびゆく日のひかりかもあかあかと人の子は街をゆきかひにけり

うつつなきはなにの夢ぞも床のうへに日に透きて我の手は汚れをり

生々しき悔恨のこころ我にありてみじろきもならぬ仰臥の姿勢

まじまじとみつめられて気づきたり今わらひぬしもいつはりの表情
朱らひく日のくれがたは柿の葉のそよともいはて人恋ひにけり
柿の葉の秀の上に朱の夕雲の愛しきかもきみとわかれては

きりもなくやめるが、十六七のわたしが、まぎれなく或る哀情をひきずりながら京都という古都の自然にふれていたこと、しかも抜きがたく「人」恋しさに胸を濡らしていたことが伺える。こういう青春に対して「無明」の二字を与えて日々を書き記していたところに、「坊主」という渾名を仲間から投げ与えられていた理由もあった。けっしてけっして清い坊主ではなかった。手はいつも汚れていた。

以来、四十五年、わが愛染無明は還暦すぎたなお退転していない。困ったことにそのことを是非する気力の日々に萎えているのも分かる。呆然としてかわるく居直っているのか、はじめを強いて付ける気になれない。言いわけをすれば、だから小説が書ける、書かずにすまないのだろう、解決がついたり悟り澄ましてしまえば、もう書く動機が失せてしまふ、と、そんなことを言ってみる一方、なんとバカなことを口走っているのだと胸が冷える。正直に申してこの歳になりながら、どこへ、どう動いていいのやら、金縛りに遭っている。この連載も、無明の闇をひとしお濃く深く自覚させて終わるやも知れない、おそろしい気がする。

ことわって置いていいと思うが、わたしは必ずしも仏教の信徒ではない。不埒なことを申せば、信徒でないことに自恃を得ているかもしれない。仏教に取材した小説を書く、信者ですと当然のように言われる。キリスト教に取材して書けばクリスチャンですと

聞かれる。否定もしない。いま、ちょうど『親指のマリア』という、江戸時代、新井白石と潜入キリシタンのシドッチとが、お互いに「一生の奇会」と深い敬意を分かち合った千枚ちかい新聞小説を、上中下三巻に復刊の最中だが、やはり、そう言われる。言われて、じつは作者として、ほっとする。お分かりいただけると思う。

初めて仏教にふれて書いた『廬山』は、浄土宗の方にはおなじみ深い、虎溪三笑の「惠遠法師」だった。また「目連変」を『マウドガリヤーヤナの旅』という題で書いた。それから大同の上華嚴寺の大壁画によって『華嚴』を書いた。最初の作では「観」を、次の作では「信」を、最後の作では「念々死去」を書いた。今この三作が一冊になっていて、読まれた方はたいいてい作者を信徒であるかのようにご挨拶下さる。だが繰り返して言うがわたしは小説の作者ではない。それでいいと思いい、そう思いながら、だが、わたしは日々「祈る」ということをどうしても罷められない。

何にむかい何のために祈るかと自分に問うことを、わたしは、おそれている。祈るという行為で、かえって自身の掌から零してしまっている「明珠」のあることが疑えないのである。家族の平安を祈っている。親だけでなくあらゆる死者の平安を祈り、世界の平和も心から祈っている。そして自身の行く手をも。しかも、かかる祈りのラチもないという自覚には苦笑を禁じ難い。それでもやめられない、ここ二十年の日課として何としても欠かせない、のである。祈りが、ただの精神安定剤の役をしている。意味が無いのである。なのに、わたしは「祈る」ことを罷めてしまえない。罷める勇気がない。

もう一つ、白状しておくことがある、やはりもう十年どころでなく、わたしは、毎夜欠かしたことなく優れた「本」をすこしずつ音読し、無数の死者への「供養」と称してきた。

夥しい死者たちのために、生前に袖すりあうことも無かったかも知れない經典や古典や名著を、すこしずつ読んで差し上げる、わたしも一緒に読む。家の者も寝静まったあとで、ひとり静かに声にだしてそんな本を読んで行くと、無量無数の死者たちが静かにわたしの部屋に満ちあふれて聴いている。わたしはそう幻想してそれを励行してきた。自分にもできる細やかな「供養」と思いまた書いてきた。

だが、そうなのだろうか。「色は即ち空」と信じれば、死者の靈魂を仮想してそれに供養するなど、芝居じみていることは明らかではないか、いや明らかだ。なのに、そのような「供養」が罷められない。すばつと罷めてしまう勇氣がない。

祈りも供養も「我」から出ている。「自我」のために祈ったり供養したりしている。いい気になっている積もりはないが、「功德」を求めているのが分かり、うしろめたく、背中が寒い。しかも我が、自我が、いつもいつも「心」を呼びよせて「言い訳」にしたがっている。保証を得たがっている。私の「心よき」ことを自分で自分に評価したいのだ。

わたしだけではないかも知れない。そこかしこで「心」こそが万能の善玉かのように、新聞や雑誌も、テレビやラジオも、えらい先生たちも、「心」の頁や時間や講演で人を引き込もうとしている。

そんなにも「心」は支える力なのだろうか。逆ではないのだろうか。妙な「心」にかかずらうことで、われわれの日常は、ますます混乱しているのではないだろうか。「静かな心」を得ようとして、かえって、「心」が自我の内景を暴風雨のように騒がせているというのが、人生の実状ではないのか。「静かな心」mindほど困難な自己矛盾はないのかも知れない、と、わたしは、この「無明」の旅をとばと語りついで行きたい。（作家）

御法語に聴く

聖道門しょうどうもんは智恵ちえを極めて生死しやうじを離れ、
浄土門じやうどもんは愚癡ぐちに
還りて極樂に生ず。

(『三心料簡および御法語』)

聖道門とは智恵を極めることによってこの生死を繰り返す迷いの世界を離れる教えであり、浄土門とはものの道理に暗い愚かな身であると自覚して極樂浄土に往生する教えです。

御忌ぎよき　く愚癡に還りてく

四月、総本山知恩院や大本山増上寺など総大本山をはじめとする全国各地の浄土宗寺院では、法然上人のご命日にちなみ、そのお徳を讃える御忌法要が盛大に営まれます。法然上人は、建暦二年（一一二二）正月二五日、御年八十歳にして往生の素懐をお遂げになりました。ですから御忌法要は、正月に営まれるのが本来ですが、より多くの方々に、共々にお念仏をお称えいただきたいとの願いから、桜のたよりの聞こえるこの時期を中心に広く営まれているのです。

法然上人が浄土宗をお開きになられたのは、阿弥陀さまの本願行であるところのお念仏のみ教えをお伝えせんとお気持ちからでした。お念仏の声に応じて阿弥陀さまが私たちをお救い下さるからです。

冒頭の御法語にお示しになられているように、仏教には大きく二つの流れがあります。一つがへあるべき理想の自己の姿を求める聖道門、自力の教え、一つがへありのままの現実の自己の姿をしつかりと省みる浄土門、他力の教えです。前者は自己の精進によってこの身このまま

で仏となることを目指す教え、後者は阿弥陀さまにすべてをお任せして
そのお浄土に往生し、そこで仏を目指す教えです。法然上人は「智慧第
一」と多くの方から称賛されました。けれどもその法然上人こそが、日
本の仏教の長い歴史の中で、そうした自己のありのままの姿を隠すこと
なく厳しく見つめられた初めての对方当事人です。

仏教評論で著名なひろさちやさんが「自力と他力は小猿と子猫の違い
に過ぎない」とおっしゃっています。自力は小猿、他力は子猫です。お
母さんと一緒に移動する時、小猿は母の胸にしつかりとつかまり、子猫
は母に後ろ首をかまれて移動する。つまり、自力と他力とはいっても、
同じようにお母さんの力、つまり仏さまのお力で運ばれる赤子に過ぎない
ということです。法然上人も「阿弥陀さまにとつては人間など赤子に過
ぎない」と思いだつたでしょう。なぜなら、あの『一紙小消息』の中
で、念仏三昧を発得はつとくなされ、上人にとつて阿弥陀さまの化身であられた
善導大師でさえ「自身は是、煩惱具足せる凡夫なりとの給えり（御自身
は『煩惱具足の凡夫である』とおっしゃられた）」と述べられているから

です。「煩惱具足」、私たちのありのままの現実の姿は正にこの言葉に尽きるようです。いったい誰が「私は違う」と言い切ることなどできましようか。

ところで「自力、聖道門の代表的な僧を挙げなさい」と言われたら、多くの方がお名前を挙げられるのが曹洞宗の開祖道元禪師でしょう。事實禪師は、留学されていた宋において、宝慶元（一二二五）年、二十六歳の年、身心脱落の大事をお悟りになりました。その生涯を通じて首唱された「只管打坐」は、仏性をもった自己が坐禅をする姿そのままが仏であるという教えです。禪師の著書には「お念仏という易しい行や自己の外にある阿弥陀さまやお浄土を求めるのは真の仏教ではない」などと浄土門への非難の言葉が随所に述べられています。

けれども、晩年の禪師の思想は少し様相が異なるようです。晩年に執筆された十二巻本『正法眼蔵』は、壮年に記された七十五巻本『正法眼蔵』の語調よりも、柔軟さや円熟味が感じられます。その「生死」の巻

には「仏のかたよりおこなはれて」と他力とも受け止められる記述もみられます。先日、不肖私が駒沢大学に招かれ研究発表をさせていただいた機会に、そうしたことを話題にしたところ、駒沢大学の某先生が「法然上人は阿弥陀信仰ですが、道元禪師も結局は釈迦信仰です」とおっしゃられました。言い得て妙なご指摘でした。禪師による次のようなお歌も伝えられています。

おろかなる 吾れは仏に ならずとも

衆生を渡す 僧の身ならん

道元禪研究の權威、鏡島元隆博士も、その著『道元禪師』に「晩年の禪師は凡夫に還った」とおっしゃられました。晩年にはあの道元禪師も、お釈迦さまのお力を仰ぎ、「おろかなる吾れ」という凡夫の自覚をお持ちにならざるを得なかったのでしょうか。母の胸にしっかりとつかまる姿をお感じになられたのでしょうか。いよいよお念仏の教えの奥深さを感じ、法然上人のお徳を讃えずにはおられません。

合掌

(大正大学非常勤講師 林田康順)

想 随 篇 掌

「お父さん、はい、これ」

二月十四日、娘たちから義理チョコをもらった。バレンタインデーである。そして、三月になった。「お父さん、わたしねえ、ホワイトデーに○○が欲しいんだ」と。義理チョコの何倍もする値段の品物を要求してくる。わが家での毎年の行事になつてしまっている。

仏教徒である小生が、なぜ、そんなキリスト教の故事にまつわるような行事に付き合わされねばならないのか。といって、

むきになつても、大人げないし、また、世間でさわぎたてているからしやうがない、と諦めてはいるが、やはり、なんか釈然としない。

クリスマス、バレンタインデー、ハロウィンなどキリスト教徒がまじめにその行事を祝い、行うのはいいが、単なる商業べースに乗せられて大騒ぎするのは、節操がないというか、やはりなんか変である。

こうした背景にはきちんとした宗教教育をしない現代日本の

④ なんか 変だな

欧米の習慣なぜするの

教育の影響や、欧米の生活習慣をかつこいい、と思うような日本社会、特に若者社会のあり方があるように思えるが、これもまた、一朝一夕にどうこうできるものではない。

といって、だまっていたら、こういったことがますます進んでいってしまいそうな気がする。明治のころ、和魂洋才という言葉葉があつたが、このままでは顔だけ日本人で、魂も考え方も欧米人ようになってしまふのではないか心配である。

(順)

京都一千年の歴史に

育まれた巧みの技

京仏壇・佛具は当店に!!

☎六一五 京都市右京区

西京極郡町一〇三番地三

(株) 島津法衣佛具店

☎〇七五—三一四—七七六八

FAX 〇七五—三一五—三七五三

宗祖の 忌日法要

特集

天台宗 真言宗
真宗大谷派
浄土真宗本願寺派
臨濟宗
曹洞宗
日蓮宗
時宗

天台宗

加藤隆宣

天台宗は、今からおよそ千四百年ほど前、中国の江南地方で智顗（ちぎ）（高祖天台智者大師五三八―五九七）によって開創しました。天台と言う宗名は、智顗が思想体系を完成させた中国の浙江省の山の名（てあります。智顗の命日十一月二十四日を（霜月会）（しづきえ）〈天台会とも〉といい、本山の比叡山では、法華十講（広さ半畳程で高さ五尺位の檀上に登り、もう一つの檀と向かい合わせに座り、法華經十卷を十座に分け一卷ずつ講讀する法会。天台では、法華經八卷に法華開經の無量義經と結經の觀普賢經が加わる。）が行われ、五年毎には、広学

（りやうぎ）堅義という論議問答が催されて、宗門僧侶の殆どが授かっております。各末寺では、「天台大師和讃」を讀誦します。又、宗祖伝教大師（最澄七六六―八二二）のご命日は、六月四日は（山家会）（さんげえ）〈六月会や伝教会とも〉いう。山家とは、比叡山に基をおく天台宗を表した意味です。やはり法華十講が行われます。經典の他に「伝教大師和讃」を讀誦して遺徳を偲んで居ります。又、各教区の各研修会等も、法要後開催されております。

真言宗（豊山派）

堀正幸

真言宗の宗祖、弘法大師空海上人は、承和二年（八三五）三月二十一日、六十二歳で高野山奥の院においてご入定にやまじようされました。

お大師さまは決して亡くなられたのではなく、心を静めて集中し、外界のものや妄想によつて乱されないような状態に入られたと真言宗では信じています。

つまり、今なお、すべての人々を済度（私どもに救いの手を差し伸べられ、悟りの世界へ導く）されているという信仰にもとづいて、お大師さまの御影みえを拝して、報恩謝徳のため勤修するのが、御影供みえくという法会です。

この法会は、観賢僧正かんけんそうじ（東寺長者・金剛峯寺檢校）が、延喜十年（九一〇）三月二十一日、東寺灌頂院で初めて修して以来、今日まで真言宗の各寺院でお勤めされています。

毎月二十一日は、お大師さまのご縁日ですが、三月は特に正御影供しょうみえくといって、盛んに行われています。また、正月二十一日は、初大師・初弘法、師走の二十一日には納めの大師、しまい弘法といい、多くの人々が参拝に訪れます。

（なお、智山派や真言他派との大きな相違はないと思われます。）

真宗大谷派

報恩講（ほうおんこう）

浄土真宗の宗祖親鸞聖人は、一一六二（弘長一）年十一月二十八日に、九十歳で亡くなられました。このご命日に、聖人の遺徳を偲び「報恩講」が勤められます。

一二九四（永仁二）年に、本願寺第三代の覚如上人が聖人の三十三回忌にあたって、その法要に誦する讃文として『報恩講私記』を作られ、聖人の念仏のみ教えに縁を結ばれた人々が集い勤められたことが始まりで、真宗門徒にとっては、自身の信心を確かめる大切な行事です。

東本願寺では、毎年十二月二十一日に行われる連夜から二十八日のご満座まで二十一座が勤められます。ご満座に勤められる「坂東曲（ばんどうぶし）」は、念仏と和讃を繰り返

し、体を力強く前後左右に動かして拍子をとりながら勤める大変ダイナミックな声明ですが、このご満座に参列しようと朝五時の開門と同時に、三千名から四千名にも及ぶ人々が所狭しと御影堂に集まります。

「坂東曲」の由来は、明らかではありませんが、今は東本願寺にのみ伝えられています。

白川良行



浄土真宗本願寺派

石上和敬

報恩講（ほうおんこう）

浄土真宗本願寺派では、宗祖親鸞聖人の御命日（旧暦11月28日、太陽暦に換算して1月16日）を御縁として、本山西本願寺で、1月9日から16日までの間、御正忌報恩講という法要が勤まります。聖人の御苦勞を偲びつつ、お念仏の味わいを深めさせていただく、浄土真宗で最重要の法要と位置付けています。全国から僧侶や門徒が大勢御参りします。

一般寺院では、御正忌に先立って、寺ごとに報恩講を勤めることになっており、「お取り越し」などと呼ばれます。通常、農繁期の終

わった10～11月頃に勤まることが多いようです。

報恩講では、親鸞聖人の伝記である「御伝鈔」が拝読され、さらに聖人の伝記を絵画化した「御絵伝」という掛け軸をお掛けします。また、門徒が米や野菜を持ち寄って「お斎」と呼ぶ精進料理を造り、一同で食することにも恒例となっています。尚、地域によっては、寺だけでなく門徒の各家庭でも報恩講が勤まるなど、門徒の生活にも深く関わるものとなっており、そのことは俳句の季語に採用されていることから窺えます。

臨濟宗

臨濟宗栄西禪師「開山忌」

臨濟宗の開祖、栄西禪師を開山とする建仁寺では「開山忌」として、栄西禪師の忌日法要を行う。

七月五日（一二一五年）が禪師の命日だが、現在は六月四日、五日の二日間を開山忌としている。四日は宿忌と呼ぶが、いわゆる連夜で、午後よりは法堂、開山堂で法要を行う。

五日は午前中より献茶を行う。栄西禪師が日本に初めて「茶」を持ち帰ったこともあり、裏千家による盛大な献茶となる。

臨濟宗建仁寺派

献茶が行われる法堂はお弟子さんや団参の方々と立錫の余地もないほどである。

献茶に引き続き法堂での法要、そして開山堂での法要となる。

この法要が年間行事の中でも最も大きな法要で、二十五人前後の僧侶、さらに雲水、そして臨西宗他派の宗務総長など、十数名の僧侶にも参加をいただいていたの大法会となる。

法要での読経は、普段と同じ経を読むが、開山忌ならではの読み方をする。これも特徴のひとつである。

曹洞宗

奈良修一

曹洞宗の開祖道元禪師（西暦1200～1253）の命日は、9月29日である。

毎年、命日の前日の晩課の時、「お逮夜」「タイヤ」のご供養をする。翌日の命日には、「正忌」「シヨウキ」のご供養をする。この時には、朝課の後、粥（曹洞宗の朝食）を捧げる「献粥諷経」を行い、午前中に「特為献茶」「ドクイケンサ」（お茶を捧げる儀式）、「出明焼香」（僧侶が焼香する儀式）、「寿量品行道」「ジユリヨウホンギョウドウ」（法華経の寿量品を読み

ながら本堂の中を歩く儀式）を行う。

さらに、毎月28日の晩課の時に、逮夜のご供養、29日の朝課の時に月忌「ガツキ」の供養をする。

なお、曹洞宗の場合、開祖の道元禪師（高祖承陽大師）と同時に、第四祖太祖先常済大師を両祖として祀っているが、お二人の命日が同じ9月29日なので、この日を両祖忌と称している。

日蓮宗

今から約七百年前の弘安五年（一二二二）九月、病により体が衰弱された日蓮聖人は、お弟子等のすすめにより身延山を下り常陸の湯へ療養に向かう途中、池上宗仲公の館（現・大田区池上・本門寺）に到着されました。身延より十一日間に渡る長旅に更にお体が弱られた日蓮聖人はこの池を入寂の地と考え、六人の弟子を後継者と定め法華経流布のご遺言をされた後、十月十三日辰の刻（午前八時）六十一歳をもって安らかにご入滅されました。この時大地は震動し、時ならぬ桜の花が咲いたと記録され伝えられております。日蓮聖人のご命日、お建夜法要のことを「お会式」と呼んでおりますが、古くは御影講、御命講とも呼ばれ、桜の花で飾った万灯をかがげ、纏

いをふり、うちわ太鼓でお題目を唱えながら日蓮聖人ゆかりのお寺へのお参りをならわしとしております。中でもご入滅の池上本門寺へのお参りは大変なもので、昔から江戸の名物に数えられ、現在でも十月十二日の夜には百をこえる万灯講中の練供養とともに十数万人の善男善女の参詣にぎわいます。

中島大成



時宗

秋季開山忌

時宗の宗祖・一遍上人の忌日法要である秋季開山忌は、現在九月二十一日から二十四日まで行なわれている。

一遍上人（一二三九―八九）は、正応二年八月二十三日の朝、兵庫の観音堂（現・時宗真光寺）で往生した。墓所は在家の人びとの手によって、この観音堂わきに設けられ、一遍上人の御影堂が建てられた。一遍上人の年忌法要は各地に止往する時衆たち、あるいは

長島尚道

遊行回国中の時衆たちによって行なわれるようになり、時宗にとって重要な年中行事となった。江戸時代になると、一遍上人の年忌法要が開山忌と呼ばれ、八月二十二日から二十三日の午後にかけて行なわれるようになった。法要の主な内容は、阿弥陀経と称名念仏の回向であって、次第に踊躍念仏は行なわれなくなった。明治時代になると、太陽暦の採用により、九月二十三日が開山忌とされ、現在にいたっている。

◆次号特大号のご案内◆

『選択本願念仏集』奉戴800年
大本山善導寺民谷隆誠上人祝晋山

『選択集』の理解と、その心にふれる決定版！

内容

グラビア ①『選択集』そのゆかりの寺を訪ねて（廬山寺、往生院、法然院）

②大本山善導寺と民谷隆誠上人

特集1 『選択本願念仏集』

1、選択の心

大本山増上寺法主

藤堂恭俊台下

大本山善導寺法主

民谷隆誠台

総合研究所客員教授

梶村 昇氏

評論家

ひろさちや氏

2、『選択集』と私

宗務総長

成田有恒師

教学局長

袖山榮真師

尼僧道場長

近藤徹称師

南無の会会長

松原泰道師

3、『選択集』解説

文学博士

大橋俊雄師

4、『選択集』の内容

本誌顧問

大室了皓師

5、善導大師と法然上人

仏教大学学長

高橋弘次師

6、『選択集』と人物

仏教大学教授

深貝慈孝師他

7、『選択集』の日本宗教への影響

ハワイ大学教授

アルフレット・ブルーム氏

他『選択集第十六章段図』の紹介を含め、『選択集』に関する記事満載。

特集2 大本山善導寺と民谷上人の晋山をお祝いして

大本山善導寺及び民谷隆誠上人のご紹介と、二祖の弁長（鎮西）上人について等、善導寺に関する記事満載

5月1日発行予定／定価 800円（送料込）

なお300部以上は600円にておわけします。

ご注文はお早めに、法然上人鑽仰会事務局まで
※多部数のご注文は、4月10日までにお願います。

法然上人鑽仰会事務局

〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4 明照会館内

TEL 03-3578-6947 FAX 03-3578-7036

大室了皓師が答える 読者からの仏教相談

「唯我独尊」の本当の意味を
お聞かせください。



先日会社の先輩から、「君はいつも唯我独尊だね」と言われてしまいました。

言われたときはどういう意味かわからず、家に帰って辞書を引きましたら、自分だけすぐれていると自負することと出ていて、自分では思いがっているつもりもなければ、独りよがりて仕事をしているつもりもなかった。なのでシヨックを受けました。

そしてその辞書の説明に、*「釈迦が生まれたときに言ったという『天上天下唯我独尊』の句に基づく。」*ということが書かれていたのがまたまたシヨックでした。お釈迦様は思いがった自負の心で言ったのでしょうか。

私は子供の時に子供会でよくお寺に行ったことがありますし、大人になってからもお寺めぐりが好きで、キリストよりお釈迦様にずっと好意を感じています。この「天上天下唯我独尊」の句の説明も、子供のときに和尚さんから聞いたことがある覚えはあるのですが、「唯我独尊」がひとり歩きしている現在、もう一度しっかりと本当のところの意味を聞きたくなりました。

またこの雑誌を読んでから法然上人にも興味を感じていますが、この「天上天下唯我独尊」の句と、お念仏の教えはどのように結びつくのでしょうか。



お釈迦様は誕生された時、東西南北の四方にお歩きになり、右手を挙げ「天上天下唯我独尊」と言われたとされ、これを誕生偈と言います。

しかしお釈迦様のような立派な方でも、生まれた直後に歩いたり、偈文を唱えられることは不可能です。

昔のインドでは仏が誕生される時には、この偈文を唱えられた後、衆生から生・老・病・死の四つの苦しみを除くために生まれてきたのだ、と言われたという故事にならない、後世の伝記作家が、お釈迦様もそうであった筈だと、褒め称えたものが今に伝えられているものです。

ご質問のように、尊大な思い上がった言葉ともとれますが、決してそのような意味ではありません。

後世の仏教家は、この詩句を人間性の尊厳を言い表したものであると解釈しています。

どんな人でも、差別なく同じようにみんな

尊い存在であることを、教えられた言葉であると、受け取っているのです。

これを、

「天にも地にも我ひとり」と和訳されていることはご存じだと思います。

私は、この言葉を、

「貴方も私も、三千世界に、たった一人のかけがえのない、代用するものがない尊い存在である」

という仏教の基本の教えを説かれたものと思っています。

法然上人はこれを受けて、全ての人が救われる道をお示しになり、次のように教えて下さいました。

一、仏像を作ったり、お堂を建てて供養する者だけが、救われるものとしたら、お金がなく貧しくて身分の低い人はどうなるのか。

世の中には、お金持ちは少なく、貧しく身分の低い人の方が圧倒的に多い。こういう人達だって救われねばならない。

二、智恵のある人だけが救われるとしたら、愚かな人はどうなるのか。

世の中には智恵ある人は少なく、愚かな人の方が圧倒的に多い。この人達だって同じように救われねばならない。

三、物事をよく知っている人だけが救われるとしたら、知らない人達はどうなるのか。

世の中には、物事をよく知らない人の方が圧倒的に多い。こういう人だって同じように救われねばならない。

四、戒律をきちんと守っている人でなければ救われない、としたら守れない人達はどんなのか。

世の中には守っている人はごく一部で、戒律を破っている人の方が圧倒的に多い。この人達だって同じように救われねばならない。

五、世間で言うところの良い行い（善行）をしている人だけが救われるとしたら、悪い行い（悪行）をしている人はどうなるのか。

世の中には、善行の人はごく僅かで、心な

らずとも悪行を重ねている人の方が、圧倒的に多い。この人達だって救われねばならない。

だから阿弥陀様は、大きな慈悲をもって、平等に一切の人を救うために、

「わが名を称えよ。称える者は全て救ってあげよう」

とお誓いになって、いまでも絶えることなく「わが名を呼べ」と私たちに語りかけておられます。

以上のことを固く信じて、お念仏に励みましよう。

お念仏はどんな人でも、何時でも何処でも称えることができるのですから。

と、上人はお諭しになっているのです。

みんなかけがえない尊い人なのだというお釈迦様の教えを、全ての人に、という悲願として法然上人は、お念仏の教えを私たちにお示しになったのです。

闘病の記

お念仏とともに

児玉良男



一

私が路上で倒れ、動けなくなったのは、昨年四月三日の午前十時ごろのことである。

その日は、風もなく、まずまずの陽気であった。そのころは年度末の業務処理、新年度事業の段取りなど多忙な日々が続き、やっと前日に地区民生・児童委員協議会の役員会、懸案処理のめどがつき、ホッと一息ついたばかりであった。

陽気も良く、しばらく髪も刈っていないので、家から程近い理髪店に向かった。家を出て左折し公民館の前のだらだら坂を下って、田んぼの見えるところにさしかかった。そのとき今まで何でもなかった右足が急に重くなり、引きずるような状態となった。びっくりしてこれは理髪どころではないと思い、回れ右して五、六歩前に進んだところで、今度は右足がもつれ、歩けるどころか支えていることさ

えおぼつかなくなってしまった。更に右手も動かなくなり、ろれつも怪しくなってきた。

一步も進めず心はあせるばかり、立っていることさえ不安定な状態で、いつ倒れてもおかしくない有様だった。

このままでは転倒して、打ちどころが悪く大事に至ってはと考え、自ら道路脇に尻餅をつくように倒れ込んだ。折しも今まで晴天だった空から小雨が降り出し、ほどなく地面も濡れて水が流れる仕儀となった。

家に戻らねば、連絡を取らねば、助けを求めねば、の思いも声にならず、また時間的にも大通りと違い路地のこと、人通りはまったくなく、あたりは静まり返っていた。

私は観念して腹を決めた。自分の人生もこれで終わりかもしれない。七十余年の生涯が走馬灯のごとく脳裏をかすめた。今座っているところ、この姿が最後となると思うと、みっともないよう、きちんとした姿でありたいと思い、不自由な身体を正して安坐し、

瞑目した。今の自分に何ができるだろうと考
えたとき、そうだお念仏だという思いが走つ
た。声にならない声でお念仏を称え始めた。
そのとき、死の恐怖はまったくなかった。
すべてを仏様（阿弥陀如来）におまかせし、
西方浄土に向かつてひたすらお念仏を続けて
いた。

「兎玉さん、どうしたの。雨の中に座り込ん
だりして……」

と、大きな声がした。お念仏をやめ、声の方
へゆっくり頭を回すと近所の奥さんが走って
来る。

「どうしたの、何があつたの」

と、再度問いかけてきた。私は口をもぐもぐ
させて訴えようとするが、声にならず思いが
伝わらない。家の方を指さすことが精一杯で
あつた。

奥さんもとにかく家にと判断されたようで、
そばの家の奥さんと呼ばひ、二人掛かりで私を
家まで運んで下さつた。

幸いその日は息子も在宅で、事の次第にび
っくり、手足のなえた物言えぬ親父の様子を
観察しながら、市内の親戚への連絡、救急車
の要請など当面の連絡をし、私の意識、脈拍、
体温などに気配りしつつ、それぞれの到着を
待った。やがてサイレンと共に救急車が到着
し、叔母たちも前後して駆け込んできた。救
急隊員の手際よい作業、救急救命士の適切な
処置を授けられ、病院に運び込まれた。

病院では無線による事前の連絡によつて、
医師を始め医療関係者が到着を待っていた。
寸時もおかない診察、検査等の結果、脳出血
と診断され、即入院と決まった。今までかす
かながら残っていた私の意識も、点滴処置を
受けながら深い眠りに落ち込み、長い一日が
終わった。

が覚める。窓から差し込む日差しはかなり強く明るい。壁の時計が午後一時を指していた。此処はいつたい何処なのだろう。それにしても私は丸一日眠っていたことになる。昨日のことを頭で追ってみる。

「そうだ此処は病院なのだ。そして私は一命を取り止めたのだ」

身体はまだ自由がきかないが、言葉は少しは出るようになった。不十分ながら意思表示ができる、なんと有り難いことか。これも今回私に関わった方々の努力の賜物であり、また仏様のお陰と思ひ熱い涙が頬を伝わった。

以来、もっぱら点滴（数種類）の集中治療に明け暮れるベッド生活が続き、途中各種の検査や薬物以外の治療があつて、日増しに回復のきざし顯著で、回診される主治医の顔や声も明るくおおいに力づけられた。

ある日、主治医から一般病棟への移転が伝えられ、危機が去って快方へ向かったことを実感し、主治医を始め医療スタッフのご努力

に改めて感謝した。

一般病棟に移って始めて食事が出た。約二週間ぶりに口にする食べ物である。その喜びは忘れられない。主食はかゆ。副食はすべてきざまれたもので何かは見た目では分からない。そのころはベッドの背もたれを支えにして座れるようになっていたが、依然右手右足はきかない。左手を使うより仕方なく、お箸はためなのでスプーンを使うがこちなく、上手に口に運べず悪戦苦闘の連続だった。その味はうれしかった。

とにもかくにもベッドに起き上げられるようになったことで、同室者への朝の挨拶や会話もできるようになって、生活空間が一挙に広がり、いろいろなことが耳に入りまた目にできるようになり、生きていることのすばらしさを強く実感した。

このころ私が毎朝お念仏を称えていると、同室者から、

「兄玉さんは、仏様にお願ひばかりしている

けど、かなえてもらえそうかい」
と、言われたことがあったので、

「私はお願いはしていませんよ。おまかせを
しているのです」

と、話したことがあった。

この病棟に移って一か月が過ぎ、不自由だ
った右の手が徐々に動かせるようになったこ
とで、時間はかかるもののベッドを離れて看
護婦の手を借りながら、歩行補助機を使えば
移動することも可能になった。

意外に早い復調に、主治医は専門家による
早期のリハビリをと言われ、入浴も許可、午
前午後の院内歩行訓練を指示される一方、本
人、家族の希望も含めて「リハビリ」先の転
院について具体的に検討するようになった。

病院の皆さんの大きな後ろ盾をいただきな
がら、私も助けて頂きたいのちを大事にしな
ければいけない、粗末にしたら罰が当たると
思いながら、自主訓練に取り組んだ。その甲
斐あって、お陰で症状もめきめき好転し、家

族親戚、友人等も驚くほどの効果を上げ、所
定の治療を終えることができた。

リハビリ先も確定し、五月二十一日看護婦
さんたちに見送られながら、お世話になった
病院を後にした。

三

その足で伊豆の病院のリハビリ科に入院し
た。早速主治医の間診等があり、理学療法士、
作業療法士の紹介があつて、明日からのリハ
ピリスケジュールが決められた。

いよいよ明日から戦闘開始だ。社会復帰に
向けて本格的な訓練に入るのだから、安易な
気持ちではいられない。私は、①サボらない、
②ごまかさない、③甘えないという三つをモ
ットーに励むことを仏様に誓い、かつ朝夕の
お念仏を更に励むことを励行した。

訓練はやはり真剣勝負と言ってもいいほど
厳しかった。しかしどんなに苦しくても私は

挫けなかった。理学療法では、身体的条件を踏まえたメニューが用意され、基礎訓練、歩行訓練各種（速度増強を含む）、階段の上降訓練、自転車走行訓練、自然条件（道路、原野等）への即応訓練、バス、鉄道の乗降訓練等にわたり、中でも階段の上がり下りは、自宅の立地条件等もあり、集中的に実施した。

一方作業療法は、腕力、握力の増強、手指の巧緻性の回復などを考慮に入れたスケジュールが組まれた。書字の練習もそのひとつであった。

日本では極めて珍しい理学療法士出身の医師という方が主治医という幸運にも恵まれ、多くの方々の気配りと励まし、そして人間的なふれあいがあいまって、力が湧き、何事にも打ち克つことができた。お陰で車椅子から歩行補助機へ、そして杖へと変わり、今では外出以外杖なしの生活を過ごしている。

今、発病、入院治療、リハビリ退院までの経過を振り返ってみると、短期間で社会復帰

できた理由を、感謝しつつ次のようにまとめてみた。

- 一、発見が早かったこと。
 - 二、医療機関へのバトンタッチがスピーディに行われたこと。
 - 三、良い医療スタッフに出会い、適時、適切な診断と治療が受けられたこと。
 - 四、指示、指導が時期相応だったこと。
 - 五、看護、介護等に恵まれたこと。
 - 六、医師の指示、指導に忠実だったこと。
 - 七、すべてを仏様（阿弥陀如来）におまかせして、常時お念仏できたこと。
- こうしたことが私を死より、生還させて下さったと思うのである。
- 法然上人の教えに、『転重軽受』の言葉がある。まさに私のこの経験は転重軽受のお念仏の功德と、今でもそう信じている。

（三島市在住・戒法寺総代）

好評
発売中
!!

お寺から檀信徒へ

宗旨布教額

家の仏壇の上に掛けるものです。
菩提寺とその宗旨がいつも
ひと目で明確になります。

数をまとめて御注文下さい。



定価：大 (32.0×18.3cm) 735円／小 (27.3×14.2cm) 420円

注文・問合せは

法然上人鑽仰会

〒105 東京都港区芝公園4-7-4明照会館内

電話：03-3578-6947／FAX：03-3578-7036

FORUM
浄土の広場

「浄土の広場」では
読者の自由な参加をお待ちしています。
詩、エッセイ、短歌、俳句、川柳、書評、映画評、
TVウオッチング、紀行文、その他創作等。
あるいは会員各寺院での催しの告知、報告など。
どしどし編集部にお寄せ下さい。

平家本節による

平家物語

通し上演

前田流平家琵琶

橋本敏江

主催・平家琵琶鑑賞会

東京・貞源寺 藤木芳清

三月十四日、増上寺に於ける旗揚げ公演で
【祇園精舎】と【殿上闇討】が語られました。

鳥羽上皇の、「当座の恥辱をのがれん為に、
刀を帯する由あらはすといへども、後日の訴
訟を存知して、木刀は帯しける用意のほどこ
そ神妙なれ。弓箭に携らむ者のはかりことは、
尤もかうこそあらまほしけれ。兼ねては又郎
従小庭に祇候の条、且つうは武士の郎等のな
らひなり。忠盛が咎にあらず」という裁決で、
忠盛を闇討ちにしようとした貴族達の計画は
悉く失敗に終わりました。

忠盛の郎従家貞の行動によって示される武
士の主従関係の緻密さは、そのまま鳥羽上皇
に対する忠盛の有り様でもあるわけです。

武士が昇殿を許されるという極めて稀な事
が、上皇の、そのような者が自分に仕えてい
るという頼もしさ、誇らしさの現れなのだとい
うことを伺い知ることができます。

今回語られる【鱈】の前半で、「其子ども
は、諸衛の佐になる。昇殿せしに、殿上のま

じはりを入きらふに及ばず」と語られます。

武士の昇殿を快く思わず、闇討ちにまでしようとした貴族達が、忠盛のみならずその子供達の昇殿や交際をも嫌わなくなったのは、単にその武力・財力を恐れていたことだけではないのでしよう。鳥羽院の問いに応えた歌の見事さや、その女房が歌道に優れていたことまことに似たもの夫婦であったと語られ、忠盛が貴族としての資質をも兼ね備えていた、文武両道に優れた人であったことが語られますが、その女房を紹介した後に、さりげなく「薩摩守忠度の母是なり」と語られます。是は文武両道の文、或いは貴族としての資質が忠度に受け継がれた事を示しているのでしょうか。

ともあれ何事もなく忠盛は刑部卿として仁平三年に五十八歳で亡くなり清盛がその跡を継ぎ、「清盛嫡男たるによって、其跡を継ぐ」と述べられて前半が終わります。

取り敢えず嫡男であったが故に跡を継いだ

と述べ、続いて、保元・平治の乱での功績によって太政大臣従一位に昇進したが、適任者でなければ任命されることのない官職ではあるけれども、清盛が天下の権を手中にした上はとやかく批判することはできないと、父の切り開いた道を一気に駆け上る清盛の姿を示しながら、それが必ずしも清盛の資質によるものではないことを伺わせます。

熊野詣の際、固く十戒を守り、精進潔斎して参拝しなければならぬものを、先達のすすめとはいえ、舟に飛び込んだ鱷を吉事として食べてしまうという暴挙を紹介しながら、「其故にや、吉事のみうちつづいて（略）九代の先蹤をこえ給ふこそ目出たけれ」と、結んでいます。しかし、聞く者は「本当にそれだけだろうか、何時か祟りがあるのではないだろうか」と、そう思わずにはられません。

【禿髪】には、まるで毛沢東時代の紅衛兵のような少年達を登場させ、【吾身榮華】では平家一門が官職の重要な部分の殆どを占め、

仙隆内案 藤書著須

色紙・茶掛けなど揮毫の種本

仏教四文字熟語辞典

上・下 各 3400円

女子は權威ある家に嫁すなど、その榮華は、平大納言時忠に「此一門にあらざらむ人は、皆人非人なるべし」とまでいわせるほどだと述べられます。

父忠盛と違い、権力・武力によって人々を押さえ込もうとする、天下の権を手中に収めた清盛の、得意絶頂の姿が伝わってきます。

平家一門が榮華の頂点を極めんとしていた頃、保元・平治の乱の最中、法然上人二十四歳の御時、嵯峨清涼寺に七日間參籠され、求法祈請の後奈良各宗の碩学を訪ねられます。法然上人はひたすら法を求め勉強に励まれ、

極楽浄土（生も死も悦べる世界） 1000円

宗教人石川啄木 1440円

仏教故事名言辞典 4000円

仏教用語事典 13000円

仏教ことわざ事典 3800円

勅修御傳によれば、「上人智慧第一のほまれちまたにみち、多聞廣學のきこえ世にあまねし。おほよそ我朝にわたれる聖教傳記眼にあてずといふことなし」と讃えられるほどでした。三十七歳の法然上人から、後白河法皇が授戒をされるということからも、当時の上人が如何に優れた評価を受けていたかが伺われます。

平徳子が高倉天皇の中宮となった安元元年、上人四十三歳の御時、浄土宗が開宗され、その年に、高倉天皇が法然上人より戒を授けられます。

●お申し込みは
ハガキで下記まで
(一割引き)

〒040-0055

函館市船見町18-14

称名寺

浄土俳壇

お水取帳とばりに僧の影ゆらぐ

松明の灰こぼれたる磴のぼる

枯山水自然のなせる雪景色

ひとひらの雪の花びら此岸に

折り紙のひひな倒るる右大臣

雛段の陰に仕置きの男の子

吉田ゆきゑ（江戸川区）

吉河瑞章（足立区）

松本厚子（町田市）

北の庄お市はるかに盆梅展

「ミラノ」から孫の便りや春の雨

小さき手の真似て合掌春立つ日

写経会のしわぶきひそと灯の揺らぐ

浄土誌を配る和尚の冬衣

山本美代子（姫路市）

松井永吉（御殿場市）

断崖のクルスをよぎる春の霧

聖土曜異教徒なれど礼拝す

アーモンドの花ひろごりぬ春の旅

雑店の雛のまなざし浴びにけり

燕くる三十番の札所駅

佐藤雅子(上山市)

内堀綾子(小金井市)

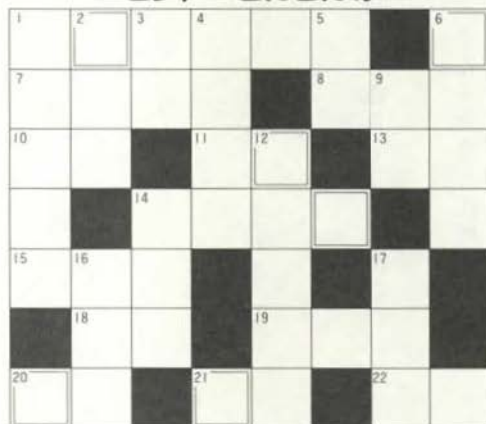
吉野法衣店

各大本山御用達浄土宗袈裟法衣専門



〒160 東京都新宿区南元町17
TEL 03-3355-2168
振替 東京21176372

★ヒント・ピカピカの★



〈タテのかぎ〉

- ①お釈迦様の誕生日を祝う行事。
- ②佐賀県有田町で生産される磁器。
○○○焼
- ③仏門に帰依して具足戒を受けた男子
- ④長野オリンピックでは、このスケート靴が新記録に貢献しました
- ⑤イカ、タコが吐き出すもの
- ⑥スリランカの旧名は
- ⑦子羊の肉
- ⑧アルプス・チロルに住む人々
- ⑨地獄の王
- ⑩あいまいな表現
- ⑪この国から日本にはじめて仏像が伝えられました

〈ヨコのかぎ〉

- ①ハワイの州花
- ②刃物の切れ味が鈍いこと
- ③現在の後にくる時期
- ④手○○うた
- ⑤相撲で負けること
- ⑥麴○○
- ⑦西洋風前掛け
- ⑧髪飾りに使うテープ状の布
- ⑨草取りに使う道具
- ⑩西方極楽浄土の教主。○○○仏。
- ⑪○○○の上にも3年
- ⑫お念仏の数をかぞえるもの○○珠
- ⑬仏教の一派でモンゴル、チベットなどで盛ん

●Ｊ・ばずる

2月号の答えは『カンゲイコ』でした。応募総数72通のなかから栄えある当選者は次の方々です。

京都・山口武雄、東京・丸岡亮輔、東京・近藤ひろみ、静岡・岡崎順一、福井・中野郁子 敬称略

答えがわかったら、『Ｊばずる係』までふるって応募ください。抽選で五名の方に記念品を差し上げます。

〆切4月末日

※3月号のＪばずるに誤りがありました。12の□は不要ですので訂正させていただきます。締め切りは4月10日まで延長致します。

事務局便り

●アニメーション映画『蓮如物語』のチケットが安く購入できます。

蓮如上人は、浄土真宗本願寺の第八世の上人で、戦国乱世の時代に伝道によって一大教団を築き上げ、浄土真宗再興の祖といわれ、また『お文』の作者として広く知られる上人です。

今年は五百回忌の遠忌の年ということで、五木寛之氏の原作を元にアニメーション映画になり、全国東映系の映画館で四月二十五日～五月二十二日に上映されます。

宗派は違いますが、母と子の情愛の大切さや、死にゆく人を念仏で送る場面等、檀信徒にもお勧めできる映画だと思います。

今回読者に特別に、大人千三百円、子供七百円にてチケットを購入できますので、お申し込み希望の方は、四月十日必着で、枚数明記の上鑽仰会事務局まで振込等で料金をご送金下さい。追ってチケットをお送り致します。

郵便振替 00180018182187

●鑽仰会への入会、そして『浄土』講読をお勧め下さい。ご連絡いただければ、見本誌、パンフレットをお送りします。

また、ご紹介頂いた方と新しく入会された方には、記念品を進呈致します。

●新規会員ご紹介（敬称略）

講読会員

東京 青山 善光寺

東京 高井戸 三浦春枝

兵庫 須磨 浄業寺

東京 高円寺 山岸栄子

ご入会有り難うございました。



編集

後記

み教えの声聞くときぞ桜咲く

貸潤

増上寺の御忌も何年か前から、四月の頭桜の花の満開のときに合わせて行われるようになった。

御忌のことについては、巻頭に勝崎氏にご執筆頂き、名句をあげていただいたので、ここで駄句を記す必要はまったくないので、桜で逃げてしま

ったが、気持ちとしては増上寺の御忌会である。勝崎氏はあげていらつしやらなかったが、御忌では私が好きな句で次の句がある。

けふの御忌を妓のいひけり酒半ば 松根東洋城

ちよつと不謹慎にも聞こえるが、酒を注いでくれないながら、今日御忌にお参りしてきたことを話す女性の話聞きながら、法然上人はこういう女たちのために易しい念仏を説いたのだなあとと思う作者の気持ち、何かとても嬉しく感じられる。

先日タクシーに乗ったら、若い運転手さんから「お寺をもっと開放して下さい」と強く言われしまった。またデザイン学校に通う二十歳になる従妹が友達と一緒に遊びにきたので、本堂に案内して、お念仏を木魚をたたきながら一緒にしたところ、全員から「めっちゃ、おもしろい」と感激されてしまった。

若い人達は、ひと時代前から比べるとるかに寺に対する嫌悪感、違和感は少ないように思われる。むしろ何かこだわりをもっているのは、我々僧侶の側かもしれない。宗祖の気持ちを考えたら、仏教に無縁と思っている人々こそ主客とすべきなのだ。一年中でもっとも気持ちのいいこれからの季節、御忌を契機に開かれた寺を演出する好機と考えようではありませんか。

(長)

編集チーフ
編集スタッフ

長谷川代潤

斎藤晃道

村田洋一

石上俊教

佐山哲郎

編集顧問

大室了晴

浄土

六十四巻四月号 頒価六百元
年会費六千円

昭和十年五月二十日第三種郵便物認可
印刷——平成十年三月二十五日
発行——平成十年四月一日

発行人 真野龍海
編集人 宮林昭彦

印刷所——株式会社 シー・ティー・イー

〒一〇五・〇〇一一

東京都港区芝公園四一七十四明照会館内

発行所 法然上人鑑仰会

電話〇三三五七八・六九四七

FAX〇三三五七八・七〇三六

振替〇〇一八〇八八二八七

Cima, Cima.



ここにニッサンの最高があります。新しいシーマ

シーマがあることで、あなたの生活にどんな感動と満足が生まれるだろうか。私たちは今、大きな自信を持って話せます。技術を注ぎ、性能に妥協せず、あらゆる状況で、「これぞシーマ」の乗り心地を楽しんでいただけると。あなたがクルマに理想として求めてきたことが、こんどのシーマに実現できた。すみずみまで「ニッサンの最高」にふさわしい仕上がり。風格と躍動感。ひとたび走り始めれば、そこにはもっと深い歓びが待っています。シーマ/シーマ/あなたの熱い貴族の心が聞こえます。日本車初。全車、SRSサイドエアバッグ標準装備。運転席・助手席に装着。側面衝突時の胸部に加わる衝撃を緩和します。大きく進化した4.1ℓV8エンジン搭載。シーマのために開発。優越感あふれるスペックが、滑らかに力強い加速を生みます。



Photo: シーマ 41LV、ボディカラー：ダークメタリック・パールホワイト（19インチ専用色）本車シートは、レザー・メタリック・ブラック。●全長4970×全幅1820×全高1445mm ●エンジンV8 4130cc
TWINCAM ●最高出力270ps/5600rpm（ネット値）●最大トルク38.4kgm/4000rpm ●運転席・助手席SRSサイドエアバッグ ●デュアルエアバッグ（運転席・助手席SRSエアバッグ）●ABS（アンチ
ロックブレーキシステム）●V-TCS ●AVシステム（TV機能付）●運転席オートドライビングポジションシート 車・国車種に搭載。シーマのお求めは、お近くのローレックス・スチール・スチール各販売会社へ。

スピードおさえ、いい運転。
シートベルトをしめましょう。

LIFE TOGETHER
NISSAN

人間のやさしさをクルマに。



これが、
ビヤホールの喉ごし。



ビヤホールの喉ごし

サッポロ生
黒ラベル



ビールは、20歳になってから。あきかんはリサイクルへ。①

※ご協力のお願い。自動販売機による酒類の販売は午後11時から午前5時まで停止されています。

サッポロビール株式会社